

日本国際理解教育学会会員の皆様へ

韓国学会担当理事 釜田聡
(上越教育大学)

韓国国際理解教育学会から、第13回韓国国際理解教育学会のご案内・執筆要領が届きました。ご一読いただき、参加・発表をご希望の場合は、次の手順で申し込みを行ってください。

1 発表のエントリー

9月24日(月)までに、「発表申し込み用紙」を釜田宛にお送りください。

2 発表原稿の提出

10月3日(水)までに、「発表原稿」を釜田宛にお送りください。
書式等は「執筆要領」に従ってください。

3 そのほか

- (1) 参会のみをご希望の場合は、10月3日(水)までに、所属・氏名を釜田宛にメールにてお送りください。
- (2) 参加・発表資格は、申し込み時点で、今年度の学会費を完納していることが条件になります。
- (3) 宿泊先・航空券の手配等は各自でお願いいたします。

連絡先

上越教育大学大学院 学校臨床研究
学習臨床コース(総合学習) 釜田 聡
TEL/FAX 025-521-3549
mail kamada@juen.ac.jp

第13回 韓国国際理解教育学会大会のご案内

■大会の概要

- ・日時：2012年11月10日（土）～11月11日（日）
- ・場所：京仁教育大学校（10日）、ユネスコアジア太平洋国際理解教育院（11日）
- ・主催：韓国国際理解教育学会、APCEIU 国際理解教育院、京畿道教育庁
- ・後援：京仁教育大学校

■テーマ

平和の文化、世界市民性そして国際理解教育

■日程表

<一日目：2012年11月10日>

9：30～10：00 登録

10：00～11：00 第1部

開会挨拶及び基調講演

祝辞

韓国国際理解学会会長（カンスンウォン）

日本国際理解学会会長（大津和子）

アジア太平洋国際理解教育院長（イスンファン）

京仁教育大学校総長（ジョンドンゴン）

基調講演

キムサンゴン（京畿道教育長）

11：00～12：30 第2部

国際理解教育シンポジウムⅠ：平和教育、世界市民性そして国際理解教育

発表：竹内久顕（東京女子大学校、日本）

カンスンウォン（韓信大学校、韓国）

Loreta Castro (Center for Peace Education, Miriam College, Philippine)

討論：ゴビョンヒョン（聖公会大）、ジョンウタク（ユネスコ韓国委員会）、キムソン

チョン（京畿道教育庁）

12：30～14：00 昼食

14：00～15：30 第3部

国際理解教育シンポジウムⅡ：多民族社会と市民教育

発表：ハンギョング（ソウル大、韓国）、Russell Bishop (Waikako University, NZ), Chris

Willians (University of Birmingham, UK)

討論：ソルギュジュ（京仁教育大学、韓国）、姜英敏（北京師範大学、中国）、

藤原孝章（同志社女子大学、日本）

16：00～18：00 第4部：自由発表

第1分科：国際理解教育と世界市民教育

第2分科：世界市民性涵養と人権教育

第3分科：暴力の克服，平和教育と世界市民性教育

第4分科：ESD教育での世界市民性

第5分科：多文化社会での世界市民性教育

第6分科：文化的マイノリティとニュージーランドの教育（ワークショップ）

第7分科：イギリスの市民教育（ワークショップ）

<二日目：2012年11月11日>

場所：ユネスコアジア太平洋国際理解教育院

9：00－12：00 第5部

韓国・中国・日本の平和教育

韓国事例（イジュンヒョン，奨学官）

中国事例（北京師範大学 比較教育研究室）

日本事例（石森広美，宮城県仙台東高等学校）

討論・ワークショップ・自由研究の発表者原稿執筆要領

I. 討論・ワークショップ

1. 執筆要領

- (1) MSワードで作成（明朝，ゴシック体）
- (2) 用紙及び分量：A4 3-5 ページ（10-11 ポイント）
- (3) 用紙のレイアウト：左 30 mm，右 30 mm
- (4) ページ番号は入れないでください。

2. 提出期限

2012年10月3日（水）まで

3. 提出先と提出方法

釜田聡 メール・添付ファイルにてお願いします。

kamada@juen.ac.jp

II. 自由発表

1. 執筆要領

- (1) MSワードで作成
- (2) 用紙及び分量：A4 2-3 ページ（10-11 ポイント）
- (3) 用紙のレイアウト：左 30 mm，右 30 mm
- (4) ページ番号は入れないでください。

2. 提出期限

2012年10月3日（水）まで

3. 提出先と提出方法

釜田聡まで，メール・添付ファイルにてお願いします。

kamada@juen.ac.jp

※発表原稿の言語は韓国語，英語，日本語のいずれでもいいですが，可能であれば韓国語か英語に翻訳してほしいそうです。